

欧州印刷業界 NEWS



- powered by drupa -

2014 年 2 号（初夏）

向暑の候、皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。これから夏休みに入るヨーロッパでの最近の話題は、政治・経済のニュースよりも、やはり 7 月 13 日まで行われる FIFA ワールドカップサッカー・ブラジル大会です。土地柄か、中南米のチームが好調である一方、前回優勝したスペインや強豪国といわれるイングランド、イタリアなどが 1 次リーグで敗退するなど、話題にこと欠きません。そんななかお届けする欧州印刷業界 NEWS 2014 年・初夏号では、以下のテーマを取り上げたいと思います。

- ▶ [トレンド](#) . . . 業界トレンド報告書、OLED の普及
キンドルのライバルが攻勢、3D 作業部会設立
- ▶ [業界・企業ニュース](#) . . . 再生可能エネルギー法の影響
ハイデルベルグ社の動向、KBA 社新 CFO 就任
- ▶ [メッセージ情報](#) . . . 2014 年 drupa 賞、drupa 2016 出展募集スタート、Viscom

では、ぜひ最後までご覧ください。

第 1 部:トレンド

トレンド 1：業界トレンド報告書 by drupa

世界最大の印刷・メディア産業展 drupa の出展者そして出展製品の多様性が、業界の動きを反映するのは至極当然なことです。しかし、主催者はそれを超えて、さらに能動的に役割を果たすべく、世界の印刷業界を対象とした調査を定期的に行い、その結果を報告書として公表しています。第 1 回目の報告書は、世界 119 か国 2,500 人におよぶ意思決定者が回答した内容を基に作成され、今年の春に紹介されました。それによれば、次の 3 点がトレンドとして浮かび上がります。

1. 印刷業界は危機的状況を打破し、これから先 12 か月の間に投資を計画するなど、経済的に回復基調にあります。背景には、効率向上と新しいサービスが先進国で求められ、発展途上国では印刷物自体の量が増加していることがあげられます。

2. 印刷産業は、技術・製品・機械を単に提供することから、総合サービスプロバイダーへと変貌を遂げつつあります。つまり、顧客のニーズを理解し、それに合ったソリューションを提供することが、成功につながっているのです。
3. デジタル印刷の重要性が今後も増していきます。これはあまり驚くべきことではないのですが、アンケート結果が改めてその傾向を示しています。印刷会社の65%はすでに従来の印刷技術とデジタル印刷機械の両方を利用しています。

報告書のまとめ（英語版）は[⇒こちら](#)からアクセスしていただけます。

出典：2014年4月23日付 *Wochenblatt für Papierfabrikation* 誌
2014年3月3日付 *i Business* 誌

トレンド2：印刷技術の進化が有機ELディスプレイ（OLED）の普及に貢献

折れ曲がるディスプレイを持つ携帯電話やテレビが最近注目を浴びています。これを可能にしているのは、有機ELディスプレイ（OLED）です。インキと同様に有機ポリマーを利用すると、その製造はまさに印刷です。今まで、この技術で生産できるディスプレイのサイズが限られていましたが、この度話題になっているのは、ドイツのMerck（メルク）社が日本のエプソンとの提携によって製造したもので、サイズは30インチと大型なうえに、ディスプレイの寿命もテレビをしっかりと見られるほど延びています。

出典：2013年12月20日付 *Infomarkt* 誌

トレンド3：電子書籍リーダー、アマゾンのライバルが攻勢

電子商取引ドイツ最大手であるアマゾンが、電子書籍リーダー『Kindle』を世界中に導入し、特にアメリカでは圧倒的なマーケットシェアを持っています。しかしドイツでは、書籍販売・メディア企業数社が共同開発した『Tolino（トリノ）』が1年前から販売され、今ではトップを行くKindle（43%）に対してトリノが37%と、市場シェアが肉薄してきています。トリノの強みは、システムの互換性や、本屋で販売されるため購入時に利用方法を指南してくれることです。

出典：2014年1月20日付 *Horizont.net* 記事、2013年10月10日付 *FAZ* 紙

トレンド4：ドイツ機械工業連盟（VDMA）が3D印刷作業部会設立

このところ、3D印刷を欧州印刷業界NEWSで頻繁に取り上げて（例えば、[2014年1号](#)ではドイツ国内初の『3D印刷店舗』について）います。それは、今後堅調に普及していくものと見込まれているためです。コンサルティング会社Roland Berger社の調査によれば、3D印刷機械の世界販売金額は現時点で22億ユーロ（3,080億円に相当）ですが、2023年までに77億ユーロと3.5倍も増加すると予測されています。

この機を逃さず、ドイツ機械工業連盟（VDMA）は6月に3D印刷作業部会を設立しました。会員は、プラスチック産業展『K』の出展者であるArburg社、Trumpf社をはじめとした生産用のプリンタを提供する企業からユーザー側まで幅広く、取り扱う内容も設計・製造・利

用と全てを網羅します。この作業部会の今後の活動によって『印刷』技術がさらに進化し、生産現場でますます広く利用されていくことでしょう。

出典：2014年6月6日付VDI-Nachrichten誌、2014年5月27日付FAZ紙
2014年3月17日付Wirtschaftswoche誌、2014年3月3日付Handelsblatt誌

第2部：産業・企業ニュース

ドイツ再生可能エネルギー法の影響

ドイツの製紙業は、連邦政府が計画する再生可能エネルギー法の改正が業績悪化を招くのではと恐れています。ドイツでは、再生可能エネルギー促進のため『エネルギー税』がありますが、免除が認められている産業があります。しかし、新政権はその枠組みの変更を計画しており、製紙産業が免除対象からはずれると予想されています。

これに加え、産業にとって芳しくない計画が明らかになりました。それは近い将来、電力会社から購入した電気だけではなく太陽光などによって自分で作った電気も、課税対象になることです。そうなれば、もちろん生産費用が高騰し、売上に悪影響が出ることは確実なため、製紙業界は強く反対しています。

出典：2014年6月25日付Handelsblatt誌、2014年2月27日付FAZ紙

ハイデルベルグ社の動向

ドイツ最大の印刷機械メーカー『ハイデルベルグ社』は、2013年4月1日～翌3月31日の会計年度における純利益が約400万ユーロ（5.6億円に相当）に達する（その前年度は1.17億ユーロの赤字）と発表しました。しかし、同社のマネジメントはこれで満足しているわけではありません。

- ひとつ目の対策は、構成変更の継続です。今回は、リストラではなく合併・買収です。ハイデルベルグ社は、すでに30%の株式を保有していたスイスのGallus社を完全子会社化しました。取引が株式交換の形で実現したため、Gallusの元所有者F. ルエッシ氏がハイデルベルグの大株主（9%所有）となりました。ハイデルベルグのゲーロルト・リンツバッハ氏のインタビューによれば、他社の買収も可能とのことです。

買収ではありませんが、ハイデルベルグ・ジャパン（HJP）は富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ（FFGS）と日本市場における包括的協業を開始することを発表しました。具体的には、FFGSのワークフローシステム『FUJIFILM WORKFLOW XMF』シリーズに、独ハイデルベルグ社製サーマルCTPセッター『スープラセッター』を加え、生産性向上ソリューションを拡充する、とのこと（詳細は⇒[ハイデルベルグ社のリリース参照](#)）。

- もうひとつはコスト削減です。一番代表的な事例は本社の移転で、ハイデルベルグ市にある本社を、最大の工場拠点である 10 キロ離れたウィースロッホへ 2015 年に移転することを発表しています。しかし、研究開発部門（約 1,000 人の従業員）はハイデルベルグ市に残ります。

出典：2014 年 6 月 6・12 日付 *Stuttgarter Zeitung* 紙、2014 年 6 月 11・12 日付 *FAZ* 紙
2014 年 5 月 26・11 日付ハイデルベルグ社プレスリリース（日本サイト）

KBA は新 CFO を任命



ドイツ印刷機械メーカーナンバー2 である KBA は、新 CFO の任命を発表しました。2010 年 10 月から本年 5 月まで職務にあたったカウフマン氏の後任人事について監査役会で議論され、ボッシュ、MAN グループで要職を歴任してきた Dr. M. デーン（Dahn）氏（写真）が就任することに決定しました。

出典：2014 年 5 月 28 日付 *Print.de* サイト、www.kba.com（写真）

第 3 部：メッセージ情報

drupa 2016 出展お申し込みスタート、新たなコンセプト・出展製品群

前号でご案内のとおり、drupa 2012 出展者も 100 社超出展参加した『国際包装産業展 interpack 2014』会期中に《drupa 2016 プレス発表》が行われ、新たなコンセプトが紹介されるとともに、出展お申し込み受付が正式にスタートしました。従来の製品はもとより、『touch the future』というスローガンのもと、包装印刷、マルチチャネル、グリーンプリンティング、そしてプリンテッドエレクトロニクスや 3D 印刷に代表される未来を拓くイノベーションにも焦点があてられます。出展お申し込み期限は**本年 10 月 31 日（金）**です。ご不明点ご相談はいつでも弊社までお問い合わせください！！



2014 年 drupa 賞のテーマのひとつは日本

4 年に 1 回開催の drupa は、科学の振興を目的に drupa Prize（drupa 賞）を 1978 年に設立し、毎年発表しています。受賞者は、デュッセルドルフのハインリヒ・ハイネ大学とともに選考され、今年は T. ヴィンナーリング（Winnerling）氏に輝き、賞金 6,000 ユーロ（84 万円に相当）が贈られました。受賞した氏の博士論文のテーマは、1542 年から 1574 年までの日本とインドにおけるイエズス会活動分析です。日本の歴史について理解が深められる論文ということで、大変喜ばしいことです。



メッセ・デュッセルドルフ社長 W.ドーンシャイト、受賞者 W.ヴィンナーリング氏、KBA 社長 兼 drupa 実行委員長 C. ボルツァー・シューネマン（左から）

出典：2014年5月21日付 Printweek 誌、2014年5月19日付 drupa プレス・リリース
<http://www.business-on.de>（写真）

Viscom 新たなホール構成

フランクフルトとデュッセルドルフで交互に開催される VISCOM 展（リード・ジャーマニー主催）。本年は11月5日～7日にフランクフルトで開催予定で、通常通り印刷を一つの部門として設けています。来年はデュッセルドルフで行われますが、主催者はホールの構成を変更すると発表しています。詳細が分かり次第ご案内します。

欧州印刷業界 NEWS2014年2号は、いかがだったでしょうか？ご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。

【発行】(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

【編集 担当】メルケ・橋木【メッセ担当】橋木

<http://www.messe-dus.co.jp> ・ <http://drupa.messe-dus.co.jp>



本ニュースレターの掲載情報は発行日現在のものであり、予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

